

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4150180018		
法人名	医療法人 清友会		
事業所名	グループホーム 和泉		
所在地	佐賀市久保泉町川久保5457番地		
自己評価作成日	令和5年1月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和5年2月7日	外部評価確定日	令和5年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>病院併設のグループホームである為、医療との連携が密に行えるようにしている。また、状態の変化が生じた場合、すぐに医師・看護師が来室できる体制が整っている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>四季折々の山に囲まれた自然豊かな環境に法人が経営する多くの事業所、施設が集まる中に存在している。多くの永年勤務する職員と共に利用者はゆっくりと過ごされている。1階には廊下伝いに行けるデイサービスが併設されており利用者は通いを楽しみにされ、レクリエーションや作品作りを楽しみ、励みにもなっている。作品はリビングや居室に飾られている。玄関には多くのメダカが育てられ利用者の癒しとなっている。法人(病院)が隣接しており、体調の変化の際には対応が早く家族や職員も心強く、安心になっている。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で「その人らしく」生活していただけるよう、職員一丸となって取り組んでいる。	創立以来理念の変更はない。事務所に掲示され、困った時、カンファレンスや会議等の折りに触れ理念を振り返るようにされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	機会がある時には地域の行事や活動に参加したり、常に見学などの受け入れを可能にしている。	法人は自治会に加入されている。地域との交流はコロナ禍の為少なくなっている。町内の神社のお祭りを見に行かれる方もある。敷地内に畑があり、芋やカボチャを栽培されている。芋を使ってのおやつ作りは楽しみになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人での取り組みはしているが、事業所単独での取り組みは行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、活動報告を行い委員からの意見を聞いている。今年度に関しても資料配布のみとなっている。	メンバー揃っての会議が出来ないので、職員会議の中で状況報告、行事報告、連絡事項等書類を作成し家族に送付され、メンバーの方には手渡して配布され事業所の様子を尋ねられたり、意見を聞く事もある。これまでには多くの質問や意見が出され改善されている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に運営推進会議で行っている。また、法人担当者が市町村との連携を行っている。	問題は多くないが相談事、決め事は法人に伝えられ回答を得られている。法人全体の実績、状況報告や空き情報も法人で管理されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。委員会を設置し、2か月に1回話し合いを行ったり、法人の勉強会などで、身体拘束の適正化についての在り方を再確認している。また、玄関の施錠も必要最低限でしか行っていない。	委員会を設置し指針を基に2ヶ月に1回委員会、虐待防止の勉強会がある。身体拘束の無いケアの意識は高く内容と弊害は周知されている。言葉遣いにも気を配られている。外出願望の方には寄り添い気分転換され落ち着かされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が見過ごされないように注意を払っている。また、虐待防止に関する勉強会を法人全体及び法人内のグループホーム合同で年2回行い、虐待防止への徹底に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時には法人相談員と連携を図り、支援できる体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行い同意を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話で家族より要望を伺うようにしたり、玄関に意見箱を設置して対応している。	現在面会は玄関に仕切りを作り、1日4組、15分程度の面会が出来る様になった。家族との面会は楽しみになっている。面会時には家族へ生活の様子を伝え、意見や要望聞き、差し入れ等の要望があり医師と相談しながら対応されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人内の会議で報告をあげたり、その都度管理者から上司へ報告している。	法人内の異動はある。職員同士はコミュニケーションが良く、日頃から意見は出し易く、なんでも聞いてくれる。管理者は個人的な相談も優しく受け止められ職員は安心されている。問題点はカンファレンスで話し合い出来る事から改善されている。玄関を解放したいが虫が入るので網戸を使用するなどの改善されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の部長が定期的に個人面談を実施し、業務状況の把握や職場環境などの整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自部署だけではなく、法人内の他部署の勉強会にも自由に参加できるようにしている。また施設外の研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人の他のグループホームと毎月勉強会を実施し交流している。また、地域包括支援センターの勉強会等に参加し、地域の事業所と交流している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前や入居時に面談を行い、要望などを聞きながら情報収集に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前や入居時に面談を行い、要望などを聞きながら情報収集に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族などから要望を聞き、必要であれば他のサービスを利用できる体制はできている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができることを一緒に行っている。その中でコミュニケーションを図りながら関係性を構築している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時や電話連絡などで本人の近況を報告している。また必要時には双方の要望を確認しながら本人と家族の関係性を維持している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら、馴染みの美容室へカットをしたり、知人の法要へ出かけられている。	これまでには面会は多かった。家族の協力により外出、外泊される方もある。以前には結婚式や法事に出席された事もあり、美容院や通院の際に帰りに食事をされる方もある。携帯電話を持参されている方は、家族と連絡をされ、電話の取次ぎも行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物たたみなども個人ではなく複数人又はスタッフを含めて行っている。また個別で作業を行うときも一つのテーブルに複数人で行い、それぞれが声掛けあったり、手伝いがしやすい環境を整えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用されている病院や施設に面会に行ったり、家族に会った時に話をしたりしている。また、必要時には相談員とも連携を図っている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に本人や家族に希望や意向を確認している。また普段のかかわりの中でも希望や意向があれば、職員間でその都度話し合いを行い対応をしている。	利用者と職員は夕食後や入浴の時にゆっくりと話す時間がある。話の中で思わぬ表情や動作で利用者の思いを知る事が出来ケアプランに活かされる事もある。意思疎通の困難な方には表情や仕草を観察し家族にも尋ねその思いに寄り添っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	法人内の多職種間でも連携を図り本人の入居前の情報を共有し、過去の生活歴の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の言動や活動内容などを日々の記録に残し、その中での気づきを毎月の検討会で話合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時や電話連絡の際に家族の意見を尋ねている。またその意見を検討会の時に職員に伝え、職員の意見も反映させている。	毎月モニタリングが行われる。担当者を決め日々の生活の様子や変化等の気づきを記録。カンファレンスでは記録を基に話し合い利用者の現状に沿ったケアプランを作成している。6ヶ月毎に見直しをされるが体調変化の際にはプランを見直し、家族にも報告されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の状況をできるだけ詳しく記録するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望に対し、なるべく柔軟な対応ができるように法人内との連携を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察、消防、公共機関に理解をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の要望があれば、入居前のかかりつけ医への受診なども継続していただいている。	利用者、家族の希望に沿っている。かかりつけ医や他科の受診は基本家族であるが、時には病院で家族と職員が合流される事もある。往診は2週間に1回、歯科はかかりつけ医もあるが訪問診療もある。母体が病院で隣接しており、夜間、急患の際にはすぐ対応出来家族も職員も安心出来る。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専属の看護師を配置しており、いつでも連絡が取れるようにしている。また毎日デイケアの看護師とも直接話をしながら情報交換を行っている。緊急時は法人の併設病院からも応援体制がとれるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設病院の医師や看護師、ソーシャルワーカーと情報交換を行いながら対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や看取りに関する指針の説明を本人や家族に行い、同意を得ている。また本人の状態の変化に応じて随時チームで話し合い、家族に話をしている。	重度化や看取りについて入居時に説明され同意を得ている。看取りの経験はない。家族の要望でギリギリまで家族の泊まり込みで過ごされる事もあるが最期は隣の併設病院で迎えられる。看取りの体制は出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を行い、対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルや勉強会資料をいつでも確認できるようにしている。またグループホームと法人全体での防火訓練を年間計2回行っている	消防署立会いで夜間想定訓練を年2回実施されている。設備点検やコンセントの埃の除去も行われている。地域の参加はないが法人からの応援体制は出来ている。事業所からデイサービスに通じる扉は防火扉になっている。家族に避難場所は周知されている。備蓄の用意もされている。地形的に土砂災害警戒区域であり法人としても対策を計画され検討されている。地区住民の参加は必要と思われるので運営協議会の際に声掛けや参加を期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人中心の生活の場であることを認識し、言葉遣いや態度など細心の注意を払っている。また、接遇に関する勉強会も行い、相手を思いやる気持ちを忘れないようにしている。	接遇の研修は全員参加で行われている。言葉遣いにも気配りされ、職員の気になる行動や言葉遣い等にはお互いが声を掛け合ったり、管理者の指導も行われる。方言も上手く使い、利用者は理解が早く伝わっている。秘密保持を守り貴重な書類の保管管理も職員は理解されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人と会話をする中で本人自身が自己決定やできる環境づくりを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人のペースに合わせ、見守り中心とした支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	昔から愛用していた化粧品を使用したり、定期的にマニキュアをつけたりしている。また、共用の化粧類も準備をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外注の食事を利用しており、その中で盛り付けなどを一緒に行ったり、一人一人の状態に合わせた食事形態を提供している。	食材は外注である。料理の出来る方は少なくなったが、つぎ分け等の手伝いはある。行事食、季節食の対応もされている。活動行事としておやつ作りは畑で収穫した芋を使って利用者と共に作り、楽しみになっている。食べやすい形態にされている。食が細くなった際には家族に好きな食べ物を相談し、差し入れされる事もある。職員も同じ物を食べている。法人の管理栄養士に相談する事もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外注先の管理栄養士が作成したメニューで提供中。その中で食事摂取量を考慮して、必要時には主治医にも相談し、家族持参の補食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きを実施しており、必要時には職員が仕上げ磨きを行っている。また夕食後に義歯は預かりポリドント洗浄を行っている。本人や家族が希望されれば歯科に往診を依頼している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で各自の排泄パターンを把握し、早めの声掛けや誘導を行っている。	昼夜布パンツの方が多い。夜間のポータブル使用はない。排泄チェック表を参考に自立の方、手を引いての誘導、合図を示す方等対応されている。仕草や様子を観察し自立支援に努めている。1人で立たれる方もあり、下着の上げ下げの出来る方もある。排便の困難の方にはには医師に相談し、腹部マッサージや投薬で改善されている。トイレは2部屋毎にあり自立支援にも役立つ。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の牛乳や軽体操、レクリエーションなどで対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日浴槽にお湯を入れ、それぞれの希望に沿ったお湯の温度や順番の希望を考慮して入っていただいている。	毎日湯張りは出来ているので何時でも入浴出来る。風呂はゆっくりと話が出来る時間である。順番の決まりは無いが、その日の気分に合わせられている。衣類の着脱の出来る方の見守りもされている。清拭、シャワー浴もある。拒む方には話題や時間を調整し誘導されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状況に応じて、休息や活動のバランスを図りながら対応している。また、寝つきが悪いときはホールでホットミルクを提供したり、話を傾聴したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の状況を把握し、薬の変更があればその都度薬剤師や看護師に確認したり、自分たちで調べたりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の生活歴や和泉での生活にあった作業をしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた野外活動を行っている。本人から外出希望があれば、家族に協力を依頼して行っている。	家族の協力で外出、外泊される方もある。コロナ禍の為外出は出来ないが、天気のいい日は広場周辺を散歩されたり、桜の時期にはおやつを食べたり、季節の移り変わりを感じ、自然を楽しみ、気分転換や日光浴が出来楽しめる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭の預かりはしていないが、外出先で本人の希望があれば、立て替えをして買物ができるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を持たれたり、本人が希望されたときには電話を掛けたり、手紙をだしたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースにはブラインドや天窓があり、外からの風を入れやすくしている。また季節の飾りなどで四季を感じていただけるようにしている。	掃除は毎日業者がされ清潔である。リビングの1角に畳間がありテレビを見たり、話や洗濯ものをたたみ等に利用されている。リビングは2階で眺めが良く職員の往来を見かけると、手をふったり、声掛けされる。台所の傍にはテーブルがあり料理の様子や匂いを感じる事ができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳スペースや座椅子があったり、椅子にはキャスターがついていて、自分の椅子のまま自由に動けるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族に説明し、本人が家で使い慣れていた物を持ってきて頂くようにしている。また、写真や作品を飾り、その人らしい部屋作りを行っている。	入口にはデイサービスで作成された名札や作品が目印になっている。居室に多くの持ち込みはない。ぬり絵、家族の写真や机を持ち込み書き物や手紙を書かれ、職員にも渡される。お仏壇を祀られお花も活けられている。2人部屋があり、仕切りも無く、長く、仲良く同居されている方もいる。居室の配置は担当者、家族、利用者と話し合い決められるが利用者の思いに沿って住みやすい部屋になっている。居室も清潔で整理整頓されている。通路は障害物もなく安全に移動出来る。夜間は乾燥予防の為洗面台に水を張られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や浴槽のすべり止めなどで安全に配慮している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない